

基本目標①：子育て・教育・人権

施策3：学校教育の充実

施策目標

家庭、学校、地域、関係機関が連携して子どもたちに充実した教育機会を提供し、すべての子どもたちが確かな学力と豊かな心と健康な体を育みながら、いきいきと学んでいます。

現状・課題

確かな学力の定着・向上のためには、子どもたちに「わかる喜び、できる楽しさ」を実感させ、家庭学習などの自主学習を着実に行っていくことが必要です。

学校では、近年急速に進む情報化とグローバル化により、従来からの基礎学力に加え、プログラミング学習や英語力など、新しい能力の獲得が求められるようになっています。これらの新しい教育内容に対応するための教員の資質向上が求められる他、教育をサポートし、効果を高めるためのICT環境の整備と活用の推進が必要となっています。

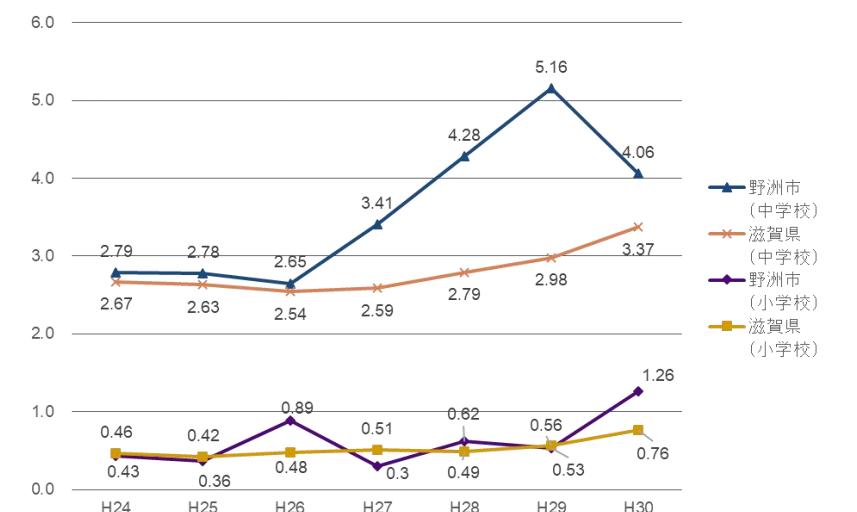
家庭は子どもが育つ上で重要な役割と責任を担っていますが、学力の二極化が進んでおり、ゲームやインターネットに費やす時間の見直しや読書活動の充実等、家庭や地域での過ごし方を見直す必要があります。

また、貧困や虐待などの課題を抱えた家庭や、子育てへの無関心や過保護・過干渉などの家庭等もあり、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、学校と行政が協力し、子どもの育ちへの支援を行うことが必要となっています。

不登校児童生徒の増加に加えていじめの問題があります。また、個別の支援を必要とする子どもも増加しており、一人一人の状況に応じた教育機会の提供がいっそう必要となっています。また、子どもだけでなく、親子をまるごとサポートできる体制の整備が必要であり、迅速に組織的に対応を進める必要があります。

このほか、老朽化する教育施設の更新、通学路の安全確保など、子どもたちの安全を守る教育環境の整備や、教育活動を担う教職員の働きやすい環境づくり、また地域の教育力を活かした地域に根ざす学校づくりを行っていくことで、市全体で子どもたちの教育を支えていくことが求められます。

■野洲市および滋賀県における不登校児童・生徒在籍率



取組方針

① 確かな学力の定着・向上

子どもたちに「わかる喜び、できる楽しさ」を実感させるために、授業改善を行うとともに、学校、家庭、地域が連携し、確かな学力の定着・向上を図ります。

② 子どもと家庭に寄り添った教育相談・支援体制の充実

関連機関と連携し、教育的支援を必要とする子どものニーズに合わせた相談支援体制の充実を図るとともに、家庭全体を支援する体制を充実させます。

③ 安心・安全な教育環境の整備と働きやすい環境づくりの推進

教育施設の整備や学校教育を支える教職員の働きやすい職場環境づくりなど、安心・安全な教育環境の整備を図ります。

④ 地域に根ざした学校づくりの推進

地域と連携しながら、地域の人や自然、文化・歴史から学ぶ活動に取り組みます。

主な取組

読書活動の推進、教員の資質向上、学習指導要領に則した授業改善、家庭学習の充実等

特別支援教育の充実、いじめや不登校等への対応、相談支援体制の充実、等

校務の効率化を図るシステム活用の推進、授業でのICT機器活用の推進、学校施設の保全・更新、通学路の安全対策の推進、等

元気な学校づくり事業の推進、地域に関する学習機会の確保、等

指標

関連する主な市の計画

| 指標 | 現状値 | 目標値 (5年後) | (指標のそのものや現状値、目標値等の解説) | ■子ども・子育て支援事業計画 ■教育振興基本計画 ■元気な学校づくりマスタープラン ■食育推進計画 ■ほほえみやす 21 健康プラン ■生涯学習振興計画 ■スポーツ推進計画 ■子どもの読書活動推進計画 ■野洲市小中学校施設保全計画 |
|---|---------------------------------|-----------------------|---|--|
| ① 「家で自分で計画を立て勉強している」児童生徒の割合 | 「している」小6年の割合 39.6%、中3年の割合 14.5% | 小、中学生とも「している」割合を半分にする | 全国学力・学習状況調査（小6、中3で実施）における児童生徒質問紙調査の設問である。左の設問に対して、①ある②どちらかといえばある③どちらかといえばない（あまりしていない）④まったくない、という回答形態となっている。 | ■子ども・子育て支援事業計画 ■教育振興基本計画 ■元気な学校づくりマスタープラン ■食育推進計画 ■ほほえみやす 21 健康プラン ■生涯学習振興計画 ■スポーツ推進計画 ■子どもの読書活動推進計画 ■野洲市小中学校施設保全計画 |
| ② 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合 | 「ある」小6年の割合 13.7%、中3年の割合 11.9% | 小、中学生とも「ある」割合を3割程度にする | | |